
持続可能な文化観光に向けたインタープリテーション手法の解明： 文化人類学、観光学、コミュニケーション学の融合アプローチ

Developing Interpretation for Sustainable Cultural Tourism with
Anthropology, Tourism, and Communication Approaches

M20助人48

- | | | |
|-------|-------------------------|--|
| 代表研究者 | 山田 菜緒子 | 金沢大学 人間社会研究域人間科学系 准教授 |
| | <i>Naoko Yamada</i> | <i>Associate professor, Human and Socio-Environmental Studies, Kanazawa University</i> |
| 共同研究者 | 田村 うらら | 金沢大学 人間社会研究域人間科学系 |
| | <i>Ulara Tamura</i> | <i>Human and Socio-Environmental Studies in Kanazawa University</i> |
| 共同研究者 | 長谷川 幸子 | 一般社団法人インタープリテーション協会 理事 |
| | <i>Sachiko Hasegawa</i> | <i>The Association for Interpretation Japan</i> |

Before the COVID-19 pandemic, tourism has been paid much attention as to encourage economy and attract visitors to maintain or reconstruct underpopulated communities in Japan. It contributed to over-tourism problems, and many tourism destinations encountered the lower quality of life among residents and degradation of natural and cultural tourism resources. Tourism required transformation to be more sustainable focusing on the quality of tourism experiences, such as authentic experiences. It was timely to examine how to transform tourism experiences during the pandemic period in which the tourism industry has been shut down due to travel restrictions, border closures, and social distancing measures. The purposes of this research involved (1) identifying ‘authentic’ components of a particular culture and ‘authentic experiences’ at a particular area under investigation and (2) examining ways to integrate authentic experiences into interpretation – visitor communication – in a cultural tourism context. By intersecting anthropology, tourism, and communication approaches, this research attempted to suggest ways to transform tourism experiences that will enable visitors to understand and appreciate cultural resources that they are seeing or experiencing at a site. A case study approach was taken in Kanazawa, Japan. First, literature reviews of the relevant subject fields were conducted to identify indicators and scales to measure authenticity in tourism contexts, authentic components of Kanazawa, and influential competencies of interpretation. Second, interviews with residents were conducted to identify authenticity of Kanazawa. Third, examples of interpretation that entailed authentic components of Kanazawa were developed to recommend suggested interpretation practices. Last, qualitative interviews were conducted with tour guides to investigate the influence of the pandemic on them and their competency. The results of this research provided informative examples of authentic experiences as a quality tourism approach and an interpretation means. They also serve as future research rationales.

研究目的

観光が地域経済を活性させる一方で、文化資源の劣化や住民の生活の質の低下につながる状況が生じていた。各地域を形成してきた文化的意味を来訪者に理解してもらうことで、住民の生活と精神、そこに根付く文化が尊重されて、来訪者の体験の質も向上し、観光が持続されるのではないかと考えられる。来訪者の理解不足による文化資源の劣化・衰退、住環境の悪化を防ぐためには、来訪者への適切なコミュニケーションが欠かせない。

これまでの研究では、文化資源の重要性を伝えて、価値を損なうことなく体験するインタープリテーションというコミュニケーション手法が来訪者の態度と行動に影響をおよぼして観光の質を高められると報告されている。

本研究の目的は、持続可能な観光に向けて、文化の真価について人々の理解を促すことができるインタープリテーションに焦点を当て、その効果的な手法を解明することである。特に、文化人類学、観光学、コミュニケーション学を融合したアプローチを用いて本物体験を提供できるインタープリテーション手法を検討する。本研究の成果を通して文化観光でのインタープリテーションの機能を高めて来訪者の理解不足を解消し、文化資源の保全を進め、文化を形成する住民の生活環境の維持・向上に寄与することを目指す。

概 要

観光地の急速な国際化にともない文化が消費主義的に扱われ、文化資源の持続的活用を阻む恐れが指摘されている。COVID-19による観光業の低迷は訪日外国人急増に沸いていた観光地のあり方に疑問を呈し、観光地の文化を支えてきた住民の長年の営みを絶やさない観

光を再検討する好機である。

観光客の理解不足による文化資源の劣化・衰退、住環境の悪化を防ぐためには、観光客への適切なコミュニケーションが欠かせない。近年の研究では、文化資源の重要性を伝えて、価値を損なうことなく体験する「インタープリテーション」というコミュニケーション手法が観光客の態度と行動に影響をおよぼして観光の質を高められることが明らかになっている(Weiler & Black, 2015)。モノより体験が重視されるようになり、体験していることの背景にあるストーリーを語ることが文化体験の質を高める要素だと言われている(Moscato, 2020)。文化に内在する意味や価値を読み取りストーリーに落とし込み、聞く人に知的情的つながりを作り出すインタープリテーションは観光の成否を左右する。しかし、日本では観光への普及が遅れており、文化資源の保全にはインタープリテーションの適用が喫緊の課題である。

そこで、本研究ではインタープリテーションを用いて本物体験を提供する方法を検討するために、金沢を事例として金沢の本物さや本物体験とはどのようなものであるかを明らかにして、それを伝えられるガイディングスキルを検討することとした。ツアーガイドのトレーニングワークショップを計画した。しかしながら、COVID-19による対面環境の閉鎖から、ツアーガイドへのワークショップ開催を取りやめ、人を介さないインタープリテーション手法を検討し、教材を作成することに変更した。

したがって、本研究では1) 文献調査を通して本物さを測る指標を検討し、2) 住民へのインタビューを通して本物さを分析・抽出した。同時に、3) 文献調査によりインタープリテーション手法の日本的特徴・要素を同定し、4) 2,3を取り入れたインタープリテーション・サイン案を作成した。またそのようなサインを作成するた

めの教材を作成した(トレーニングワークショップの代替手段として)。さらに、5) ツアーガイドへインタビューを実施し、COVID-19の影響や今後の予測、スキルの維持向上について調べた。

これらの結果、1) 本物さを測る指標案、2) 金沢の文化形成要素のリスト、3) 日本の特徴を加味したインタープリテーション手法、4) 金沢の文化を反映したインタープリテーション・サイン案、5) 本物さを反映させるインタープリテーション・サインの作成における要点、6) COVID-19の影響を踏まえた今後の観光・ツアーガイディングの展望に関する示唆を得た。

これらより、結果1～3を基盤として、より広範囲の本物さを対象とした次段階の文化観光における本物さの検証研究へ展開することができる。また、結果4を対象とした影響評価をおこなうことができる。結果5を用いた実践への活用も期待できる。さらに、結果6を踏まえて、モデル構築と実情の検証、長期的影響の測定ができると予測される。本研究結果を踏まえた今後の展開を期待できる。

－以下割愛－